

上島の文芸

水曜会【弓削】

手作りの雛を飾りて一人住む

背山降り来る鶯を待ちて日々

春日燦々打ち寄せる波の数

手作りの雛を飾り合へるかな

我に撒飛ばす荒星（冬の星）降り注ぐ

亀島 一美

田坂 紫苑

田坂 芙代子

中本 砂恵子

中脇 幸造

生名短歌会【生名】

あと幾年寿命のあるやよろめきつ歩めば冬草しぶとく芽ぐむ

夕映えに明日を信じ樂しかり妻と八十路の余生を暮す

村上 宗子

村上 昌子

子ら乗せし船が港を離り行きひとり見送る鷗を伴に会う度に知恵のつき来て嬰兒は今日寝返りを見せてくれたる

丁寧に友の淹れたるコーヒーをすすする昼下り孤独に遠し

渡辺 スズ子

池本 滝子

からっぽになりたる私の生きの日の容赦もあらず時は過ぎゆく

浜田 伊勢子

寒き雨一羽の鳶空を舞う我は歩道を思い同じか

村上 優美子

二つ目の橋に繋がる上島の存亡いかにと風花の舞う

池田 友幸

むつみ歌会【岩城】

地に触れて積もらざる雪降りしきる島は二月の明るさにあり

今日もまた美し夕陽を背に受けて愛車で走る西部海岸

宮本 佳世子

そぼそぼと氷雨降り頻く梅が枝に米粒ほどの膨らみを見つ

浪本 綾子

土生港に鷗忙しく飛び交ひぬ立春過ぎし雨の夕刻

池田 繁雄

オゾン浴寒さ覚悟に出づる庭温度計には暖かき風

森本 和佳

爆死せる水兵流れし上弓削の沖に釣舟あまた浮かべり

浪本 三千彦

未婚初産めでたく男の子イクメンのパパ「理斗」と名付け

白石 勇

クリスマス正月もきた孫も来たはりきるばかりじいじとばあば

高本 久子

池本 正子

魚島俳歌柳会【魚島】

八人目の孫が彼女と挨拶に長生きできた幸福感ず雨ばかり春一番はいつ吹くの

しあわせ

三上 運

寒が過ぎ我が家の庭も色づきぬ白い水仙真赤な椿

大黒 丸

楽しみよ孫の出世のタラ話

名刺入れ持たず気促な老いの旅

佐伯 真柳

信用がある人お世辞嘘言わずパソコンは難しいねと自慢をし

城山 登

節分の鬼の驚く大雪が

初夢はマライオンを見る旅に

柳 小福

島三つ繋ぐ駅伝熱が入る

海苔網の果に伊予路の煙立つ

松原 瑞峰

第五回虚子生誕記念俳句祭

青少年の部 佳作

（平成24年2月18日）

《稲畑廣太郎選》

◎鈴虫の音に導かれゆく夜道

弓削高等学校2年 小林 佳博

お詫びと訂正

3月号の広報において次のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

■ P16 上島町花の島構想「各地の草花と花木」決定の記事にて、魚島、高井神地区のイメージが「春」となっておりましたが、正しくは「冬」となります。